

1. 設定
2. ライブ翻訳
3. ヒアリングチェック
4. 聴力補助
5. 現状の感想



1. 設定



ノイズコントロールオフも

左右を忘れるので同じが良さそう



チェックを切り替えられる

臨場感のある立体的な音響を体感

動画はAppleTVやNetflixの一部コンテンツが対応

■ 「会話を検出」とは？

AirPods Pro 3に搭載された、
ユーザーが喋り始めた瞬間に、音量を自動で下げる機能。

- ・自分が喋る
 - ・誰かが近くで話しかける
 - ・レジでの注文
 - ・職場で声をかけられる時
- これらのタイミングで、
イヤホンを外す必要がありません。
しかも、
- ・音量を下げる
 - ・外音取り込みに切り替える
 - ・BGMが小さくなるので会話しやすい
- まで自動でやってくれます。

「え、こんなのあったの？」と驚く人が多い、隠れ神機能

AirPodsの真価は、音質よりも

「生活の中でのストレスを消してくれる点」にあります。

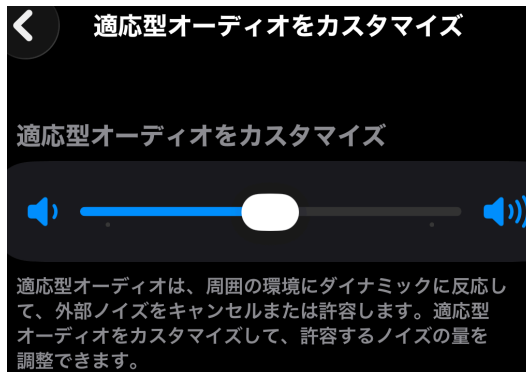
- ・イヤホンを外すたびに邪魔になる
- ・外すと落としそうで怖い
- ・付け直すのが地味に面倒

これらが全部なくなる。

Appleがずっと大切にしてきた

“テクノロジーを意識させない体験”を感じられる機能で高額だが人気

常時使わない人には不必要



イヤープースはMが最初に付いていて、他にSXX SX S Lが選べる 私はSが良さそう

「パーソナライズされた音量」という機能があります。周囲のうるささに合わせて自動で音量を変えてくれるのですが、これが時としてストレスに……。

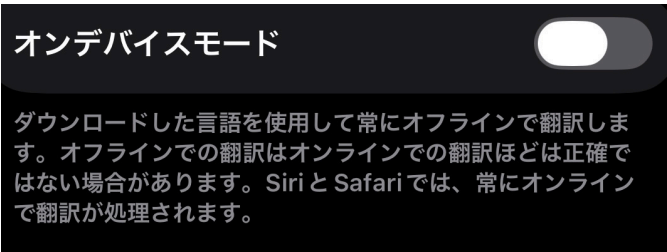
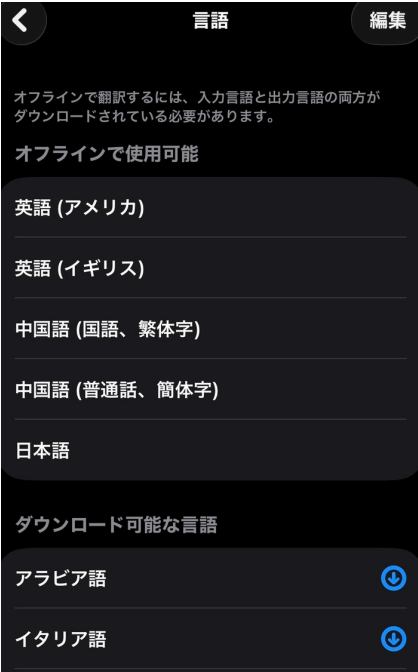
「急に音が小さくなった!？」と困惑したことがあるなら、設定の「オーディオ」セクションにあるこの機能をオフにしましょう。自分の耳の主導権は、自分で握るのが一番です。



両手が荷物で塞がっているとき、着信があっても困りますよね。そんなときは「頭のジェスチャ」の出番です。

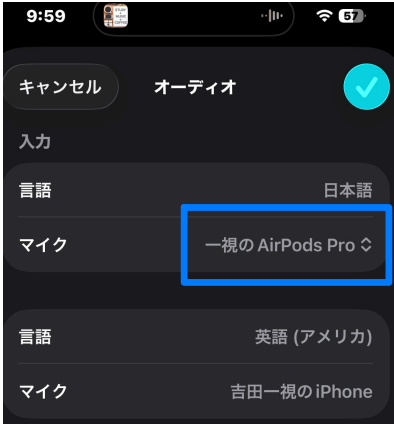
- 承認、応答：上下に頭を振る
- 拒否、閉じる：頭を左右に振る

2. ライブ翻訳



オフラインでダウンロードのみは正確性劣るようなので、オンラインが良い

Wi-Fi無ければパケット消費増える



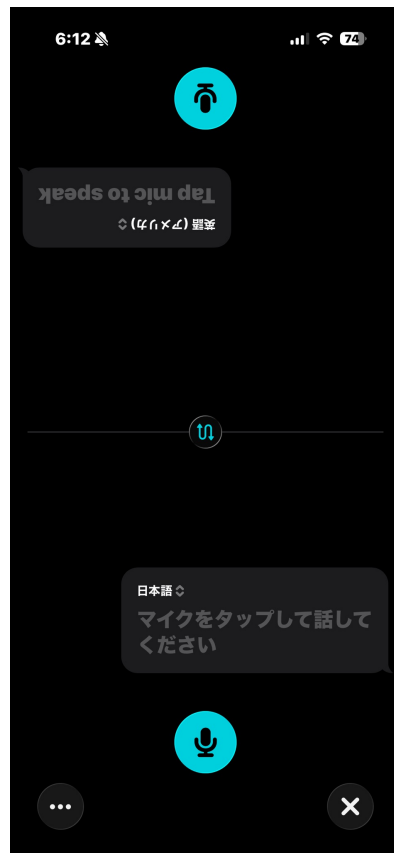
AirPods装着時 iPhoneも可 どちらが良いか？

サイドバイサイド iPhone

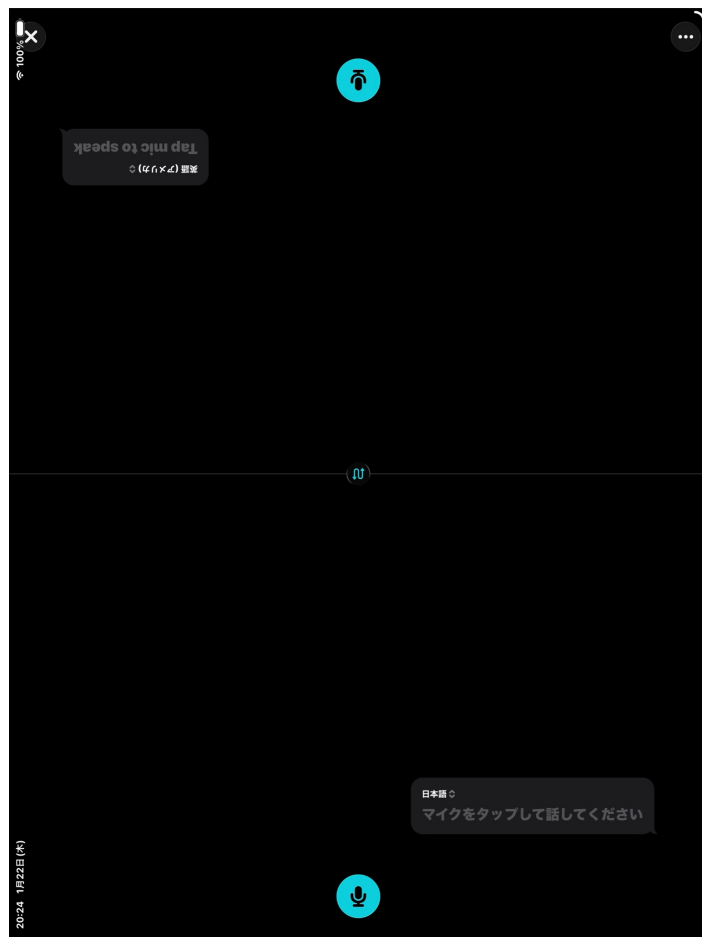


マイクボタン押すと両言語聞く

対面 iPhone



対面 iPad



3. ヒアリングチェック

22:37

Appleのヒアリング
チェックの結果

左耳
14dBHL
難聴の可能性は
ほとんどない

右耳
11dBHL
難聴の可能性は
ほとんどない

チェックの結果、難聴はほとんど
認められません。
[詳細情報を表示](#)

健全な聴覚を維持しましょう
健康における聴覚の重要性について
学びましょう。
[記事を表示](#)

調整は不要です
AirPods Proのヒアリング補助は
おすすしません。現在のAirPodsの
チューニングはあなたのチェック結果
に適合しています。

完了

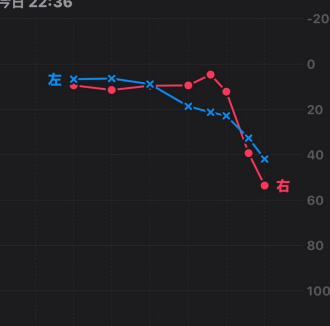
ヒアリング補助を設定

22:38

Appleのヒアリングチェックの結果

左
14dBHL
今日 22:36

右
11dBHL



Frequency	Left Ear (dBHL)	Right Ear (dBHL)
125Hz	14	11
250	14	11
500	14	11
1kHz	14	11
2kHz	14	11
4kHz	14	11
8kHz	14	11

左平均
難聴の可能性はほとんどない
14dBHL

右平均
難聴の可能性はほとんどない
11dBHL

Appleのヒアリング
チェックの結果について

妻

21:34

Appleのヒアリング
チェックの結果

左耳
5dBHL
難聴の可能性
はほとんど
ない

右耳
8dBHL
難聴の可能性
はほとんど
ない

チェックの結果、難聴は
ほとんど認められません。
[詳細情報を表示](#)

健全な聴覚を維持
しましょう
健康における聴覚の重要性
について学びましょう。
[記事を表示](#)

完了

ヒアリング補助を設定

難聴度

発話を理解するのに重要な4つの周波数があります。難聴の分類は、これらの周波数すべて
における聴力低下の平均に基づいて行われます。世界保健機関 (WHO) は、難聴を5段階の
レベルに分類しています。

難聴の可能性はほとんどない

25 dB以下の聴力損失の場合、聞き取りに
はほとんど問題がありません。ささやき声も
聞き取ることができます。

軽度難聴

26～40 dBの聴力損失の場合、1メートル離
れたところから通常の大きさの声で話した単語
を聞き取り、復唱することができます。

中等度難聴

41～60 dBの聴力損失の場合、1メートル離
れたところから大声で話した単語を聞き取り、
復唱することができます。

高度難聴

61～80 dBの聴力損失の場合、聴力の高い方
の耳に向かって叫ぶと、一部の単語を聞き取る
ことができます。

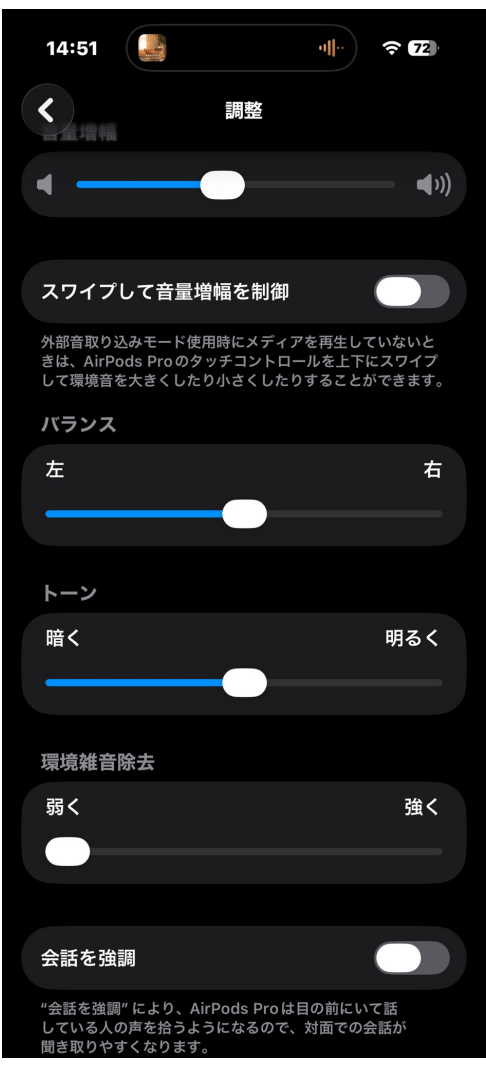
重度難聴

81 dBを超えるの聴力損失の場合、叫んでも
単語を聞き取ることができません。

4. 聴力補助

軽・中等度難聴用

自分は使えないので
難聴の人に試してみたい



5. 現状の感想

英語の字幕の映画を観たが、字幕見ないとあまり理解できなかった
短文は使えるが、長いと正確性が大きく低下

約1秒タイムラグがあるのでケースによりギクシャクする
特に英語と日本語は文の意味が決定するタイミングが異なるため、
タイムラグが大きくなりがち

翻訳アプリを見ながらやった方が、相手がAirPods無くても出来る→AirPods不要？
複数人ならiPadの方が良い

ヒヤリングが少し出来るならAirPods不要？

ライブ翻訳自体はスピーディーに動作するので、相手がいる会話であれば、
「翻訳を挟むのですこしテンポを落として、なるべく一文一文を短く話して」
などと伝えれば、会話を成立させることはできる



上の「」を☆(お気に入り)に入ればいつでも英語で再生できる

